



## 持続可能な暮らしを求めて (3) 生き残る力と地域持続のかなめとしての祭

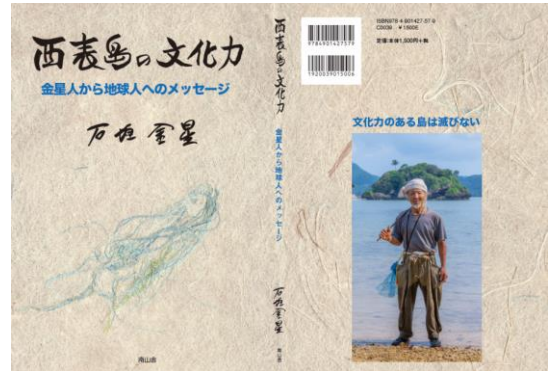
2023年6月9日、南米コロンビアで落ちた小型機から森に逃れて実に40日後に生還した4人姉弟のニュース。13歳・9歳・4歳・11か月の子どもたちが、機内にあったキャッサバ(タピオカ)粉が尽きたあと、アマゾンの森の中で川の水と野生のヤシや木の実などで生き抜いたのです。停電しただけで、もう誰も暮らせない高層ビルの立ち並ぶ「限界都市」と比べて、なんという強靱な先住民の文化力でしょうか。私どもが、自然の豊かさを恵みに変える伝統文化の力に触れて、人類がお金のために自然環境を破壊するだけの生物ではなかったことを思い知ったのは、1978年から長期滞在したコンゴ民主共和国の森と大河の民の中で暮らした時でした。

このほど、これらの例と同じことに気づかせてくれた自称「イリオモテの原住民」、こと石垣金星さんの遺稿集を『西表島の文化力～金星人から地球人へのメッセージ～』(南山舎)としてまとめました。沖縄は日本で唯一人口が増え続けている県です。西表島も来島者のコロナからの復調で活気があります。すばらしいことに、自然への感謝の祭の継承へ、移住者たちが島言葉での伝統芸能に挑戦しながら積極的に取り組んでいる村があります。アマゾンやコンゴや西表島の大自然のただ中だけでなく、自然と文化の多様性をそこなわないで暮らし続けていくことはできるはず。そう信じて、大都会ではなく山口県の中山間地に住むことを選択して、田をつくり薪を使って暮らしはじめて30年近くがたちました。食べ物とエネルギーの自給はある程度できます。しかし、祭がなくなると集落は崩壊します。人々が結集できる場の創造こそが、地域の持続性のかなめだと感じています。

コロナで休止していた、阿東つばめ農園での「未来会議」を8月から再開したいと考えています。古民家の手入れや、田畑でのワーキングホリデーを通して、地域の持

阿東つばめ農園・生物文化多様性研究所  
安溪游地・安溪貴子

続可能性を足元からさがしてみませんか。  
未来会議のお知らせは、<http://ankei.jp>



↑『西表島の文化力』表紙(2023)

← 交流館に集う

## イベント お知らせ みんなでいっしょに 銀天街であそぼう!

- ・時：8月7日(月)、21日(月) 10:00~12:00
- ・場所：多世代交流スペースしばふ広場
- ・参加者募集：小学生
- ・ボランティア募集：一緒に遊んでくれる中学生以上(9:30~)
- ・問い合わせ：うべ環境コミュニティー 0836-39-8110

## 第1回環境サロン

### 「タネは誰のもの」映画を見る会

○日時：7月9日(日) 10:00~12:00

○場所：宇部市立図書館 2階 講座室

映画(65分)に続いて、  
有機ネット山口西部副代表・比嘉朝康さんのお話

- ・申込×切：7月5日(水)
- ・資料代：200円 高校生以下無料
- ・当日参加あり(空席あれば)
- ・定員50名

主催：うべ環境コミュニティー(宇部市まちなか環境学習館内) 後援：宇部市



次世代にいのちをつなぐタネ

## タネは誰のもの

監督・撮影・編集：原村政樹『お百姓さんになりた〜』『武蔵野』『無香の叫び声』  
プロデューサー：山田正彦 語り：江原啓之 音楽：鈴木光男 2020年/日本/カラー/65分 kiriku-bito.com/tanedare

## 宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 J R宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場無し(近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail [ubekuru@gmail.com](mailto:ubekuru@gmail.com)

開館時間 9時~17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 毎週土・日曜日、祝日、年末年始



Home Page



facebook



twitter



NPO 法人うべ環境コミュニティー

# 地球温暖化対策への取組に向けて

宇部市環境政策課長 神代克徳

私達は、経済発展や技術革新などにより、豊かで快適な環境の中で生活を送ることができます。この豊かさを享受する一方で、石油や石炭などの化石燃料の消費に伴うCO2等の温室効果ガス排出量の増大やそれに起因する地球温暖化が、気温上昇や海面上昇、気候変動、生態系破壊など、地球規模で将来に渡り深刻な影響を及ぼし始めています。

令和2年に宇部市民を対象に実施したアンケート調査では、気になる環境問題の問いに対し、トップは「地球温暖化対策」、また、優先的に取り組むべき環境施策については、「地球温暖化対策」が2位となっており、多くの方がこの問題に関心を寄せ、対策の必要性を認識しておられることが伺えます。

この地球温暖化の問題について、国では、マイナス要素に捉えるのではなく、対策への取組が今後の産業

構造や社会経済への変革をもたらし、大きな成長につながるとプラスに捉え、「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」を目指しています。

ご家庭においては、一人ひとりが当事者として地球温暖化の問題に向き合い、日常生活の中で、冷暖房や照明、家電などの節電、節水、エコドライブ、ごみ減量など、エネルギー消費を減らし、低炭素型のライフスタイルに転換していくことが求められています。

本市は、かつて、石炭産業の発展に伴い発生した、世界一灰の降るまちといわれた公害問題に対し、産官学民が連携し、「宇部方式」により克服し、公害対策先進都市として、世界的に評価された輝かしい実績があります。

皆様には、改めてこの先人達の環境問題克服の功績を思い返していただき、日常生活において、地球温暖化防止に向けたエネルギー使用量の削減や再生可能エネルギー活用等の取組をお願いいたします。

## 太陽光発電とエコキュートで節電を

非営利株式会社 市民共同発電うべ 代表 溝田 忠人

高齢・年金世帯の火の安全；電気料金負担軽減；環境寄与の理由で14年前に太陽光発電（4.28kW）・オール電化にしました。数年後FIT（余剰電力買取制度）開始、電力価格より高く（48円/kWh）売電、安い深夜電力でエコキュート断熱槽に溜めた湯を使い、電気料

金は負担どころかプラス月も出現。しかし、一昨年FITの10年が終了；余った電気の売電は7.15円/kWh；相前後し深夜電力単価が昼間と大差なしに；負担は跳ね上がるも「今まで得していたからいいか」くらいの気分でした。

しかし、今年の値上げで、再検討：毎月1,500～3,000円程の売電額を7.15円/kWhで割った売電量は月200～400kWh、1日平均6.7～13kWhは、250ℓの風呂水18℃を40℃にするエネルギー約6.4kWhを十分超すと判明。そこでエコキュートの従前のタイマーを10時間進め、昼間9時～17時に変更しました。

図1は、その結果の例、発電、消費、売電、買電の4項目で複雑ですが、晴天の炊き上げ時は買電ゼロに注目。曇っていても少しは発電し全量買電はなく節電になります。

図2は、我が家の深夜稼働エコキュート時代の2022年度と2023年4月20日から昼間に移した電力量の様子です。5月は明らかに買電の電力量が減っています。今後は楽しみです。6月以降は当社のHPに掲載します。  
(<https://kyodohatudenube.jimdo.com/>) これにより、蓄電池を付けなくても太陽光発電の弱点をエコキュートの断熱の良い蓄熱がある程度補い、昼間の相対的に暖かい空気はヒートポンプの効率もアップしてくれるのです。

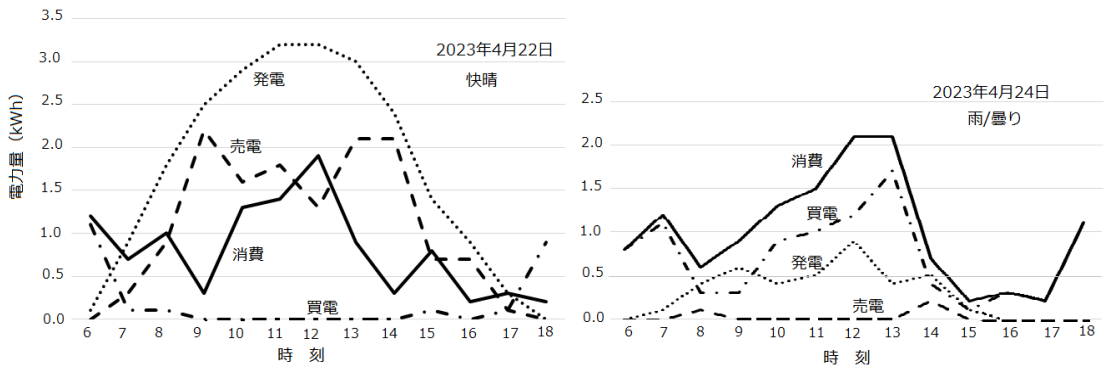


図1 快晴の4月22日と雨天/曇りの4月24日の発電、消費、売電、買電電力量時間変化

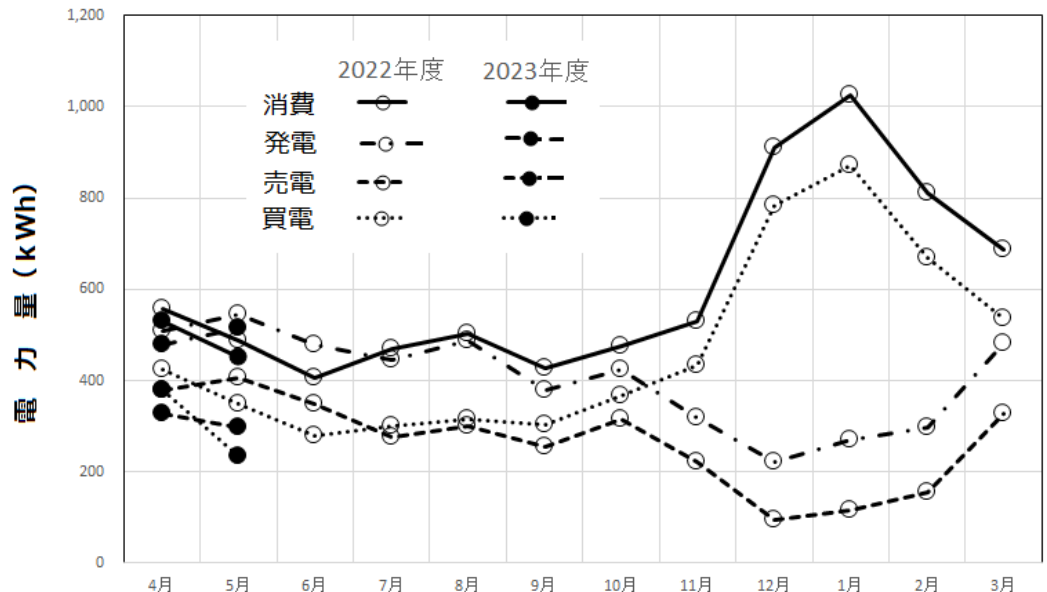


図2 2022年度エコキュートは深夜運転、2023年4月20日から昼運転に移す